

第529回遊佐町議会定例会一般質問通告書

平成31年3月定例会

通告順	通告者	質問事項	要 旨
1	<p>3番 菅原 和幸  (一問一答)</p>	<p>1. 町民の安全確保にあたっての県との連携について</p> <p>2. 障がい者を理由とする差別解消の推進について</p>	<p>遊佐町の資産とも言える、海・川・山。そして、それらを繋ぐ道。どれも県との調整が重要である。</p> <p>県民の安全確保のため、「津波災害警戒区域等指定基準」、「河川流下能力向上計画」や「県道路中期計画」等を、県は策定し対応している。</p> <p>役場周辺が、月光川の洪水時に浸水想定区域であることを、町民はどの程度理解されているか。</p> <p>町民の安全確保に対する所見、また上記計画等の策定にあたり、県との調整経過について伺う。</p> <p>障がいのある人もない人も共に暮らせる社会を目指す「障害者差別解消法」の施行から、3年ほどが経過した。同法における「障がい者」とは、日常生活や社会生活に制限を受けるすべての人が対象と理解する。本町でも法律に基づき、「差別の解消の推進に関する対応要領」を設定。一方、県は平成30年9月に「ヘルプマーク」を導入した。</p> <p>高齢化により、視聴覚を含め衰えも生ずる。行政事務上での現状、課題、新庁舎において配慮すべき機能等について伺う。</p>
2	<p>2番 松永 裕美  (一問一答)</p>	<p>1. 遊佐町の障がい者雇用について</p>	<p>1、遊佐町行政において障がい者の雇用率は。過去3年間の実績を伺う。</p> <p>2、県内ではトップから何番目の雇用率であるのか。そのことに対して町としてはどう対処しようとしているのか、お考えを伺う。</p> <p>3、遊佐町に住む障がいのある方々が自分のもっている力を十分に発揮でき、生き生きと暮らせているだろうか。自分ほもっと力があるのに働けない、仕方がないと諦めている障がい者はいないか。御家族の人達は我が子の生き方に見通しを持てているか。障がいのある人を家族だけで抱え込んではいないか。</p> <p>4、特別支援学校で生徒の卒業後の就職先も共に考えて下さる進路指導部があるはずだが、就職先に「行政の機関」があつて当然だと考える。現状、高等部・ハローワーク等に町は連携しているのか伺う。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
2	<p style="text-align: center;">2 番 松永 裕美  (一問一答)</p>	<p>2. 遊佐町における大人食堂の提案</p>	<p>1、最初に遊佐町の65歳以上一人暮らし世帯の推移を伺う。(過去5年間)また今後予想されるであろう1人暮らし高齢者世帯の福祉を町としてはどう考えているのかも伺う。</p> <p>2、全国的にこども食堂なるものも増えているが、遊佐町でも大人食堂を始めてみたらいかがか。遊佐町総合発展計画(第8次遊佐町振興計画)の基本計画として、第3章共に寄りそい助け合い、幸せを実感できるまちづくり、第2節健康でいきいきと暮らせる環境整備に当町は力を入れていくと明記されている。</p> <p>高齢になった方々が、ご自分の健康も考え、話し相手も気軽に出来る立ち寄り場としての「大人食堂」は必要であるのでは。</p> <p>最初は雇用の場創出のためスタートし、元町に出来て今も運営継続されている、平日昼食限定の「ゆざや食堂」をこれからさらに「大人食堂」としてこの町に定着させていくよう、知恵を出し合う時期にきているのではないかと考える。ご所見を伺いたい。</p>
3	<p style="text-align: center;">7 番 阿部 満吉  (一問一答)</p>	<p>1. まちづくり事業に望むこと</p>	<p>中央公民館が生涯学習センターに名前が変わり、地区公民館はまちづくりセンターに。まちづくり協議会として地域運営を担ってきた。</p> <p>この間、町の人口は急速に減少し、当初の狙いや課題は変化してきている。そこで次の項目を中心に考えていきたい。</p> <p>1、活動を支える人材や、事務局運営の人材は確保されているか。</p> <p>2、活動資金は不足していないか。</p> <p>3、地域住民の当事者意識は。</p> <p>4、自主防災組織の現状は。</p>
4	<p style="text-align: center;">10 番 斎藤 弥志夫  (一問一答)</p>	<p>1. 洋上風力発電</p>	<p>日本の国土の内、洋上風力発電として利用可能な場所は約10%の土地になる。風力発電業者が決定しているのは、茨城県の鹿島港のみのようなのである。他に12候補地あり、そのうちの1つが酒田港内・遊佐町の海洋となっている。国内ではまだ実証実験段階がほとんどであるが、遊佐町では洋上風力発電の説明会がたびたび開かれてきたが、町の基本認識を伺う。</p>



通告順	通告者	質問事項	要旨
6	4番 筒井 義昭  (一問一答)	1. 新庁舎建設と同時並行して、街中空洞化防止施策を講じるべき(元町活性化施策)	新庁舎建設が平成32年度に向け進められ、中核となすエリアの創出がなされるが、新庁舎建設と同時に空洞化が進む元町の空洞化防止策(空き家・空き店舗)活用策や、元町に集まり・暮らし・定住する元町活性化施策を各課横断的に取組むべき時であると考えます。
		2. 町における「木育」の取組みは	3月4日に遊佐町共存の森運営協議会主催で、「ウッドスタート」で遊佐を元気に！という、「木育」活動講演会が開催されますが、町は今後、木育の推進を如何に図ろうとしているのかを、お示し頂きたい。
7	8番 佐藤 智則  (一問一答)	1. 水産基盤整備事業について	H31年度の町長施政方針における漁港漁場整備について、藻場造成および岩ガキ増殖礁の設置事業に取り組むとある。遊佐町沿岸漁業の核とも云える岩ガキは、その収穫が激減し、デッドラインに近い状況と云われ、危ぶまれている。今般の設置事業について説明を求めます。
		2. 町道の整備促進および橋梁修繕について	町道畑西線の改良工事が昨年12月に畑集落の端より東廻り県道までの区間が完了し、いよいよ町道改良工事及び広畑橋架替えが見えてくると地域住民も見守っている。今後の年次計画はどの様なものか。 また、H31年度の橋梁長寿命化修繕計画は丸子橋の修繕計画であり、どんな工事になるのか説明を求めます。
8	9番 高橋 冠治  (一問一答)	1. 遊佐町沖の洋上風力発電について	遊佐沖での検討が行われている洋上風力発電について、県は「山形県地域協調型洋上風力発電研究・検討会議」として「遊佐沿岸域検討部会」を立ち上げ3回ほど開催して来た。部会のメンバーは国・県・町の関係機関の職員、また国の研究機関と各6地域のまちづくり会等の代表・水産関係者・商工会・観光協会その他となっている。 各地で住民説明会を行ってきたが参加者は少なく、町民全体には認知度・理解は殆どされていないのが実態である。 このような状況で町は、この計画に対し、どの様なスタンスで向き合っていくのか伺う。
		2. マイナンバー普及について	マイナンバーカードの発行率が未だに全国的に低い状態にある。特にわが町では1,027枚で全体の7.39%に過ぎない。国はマイナンバー普及のために各健康保険被保険者証にも使用出来るよう、去る2月15日に閣議決定され2021年3月の施行に向け準備に入っているが今後の町の対応は。